

---

# 星空学園

零夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星空学園

### 【Nコード】

N8136X

### 【作者名】

零夜

### 【あらすじ】

夜景のきれいな町、新宿、その星空学園に通う。

星好きな生徒。並河 雄太。

彼は、部活の時間がなによりも好きだった。

そこにある日、新入部員がやってくる。

## 俺の好きな時間。（前書き）

星空学園にかよう。

一年生。並河 雄太。

彼は、星が大好きだ。

そのため。天体観測部に入っている。

季節は、一年目の冬だった。

そこに新入部員が入ってくる。

## 俺の好きな時間。

俺は、並河<sup>なみかわゆうた</sup> 雄太。

夜景のきれいなこの町、新宿に。星空学園、と言う。学園があつた。俺は、その1年だ。そして、人気のある部活、天体観測部、と言うのがあつた。

俺は、その部活に入っていた。活動は、主に、夜中の12〜3時ぐらいまでだ。

俺は、その時間が好きだつた。そんな時、新入部員が入ってくる。

雄太「新入部員．．か。まあ、俺には、関係のないことだな。」  
と思っていた。

部長「今日は、新入部員を紹介します」

新入部員（前書き）

新入部員？

まあ、いいか。

## 新入部員

俺は、新入部員の登場を待っていた。

部長「入って来ていいですよ？」

「はい．．」

「私は、新入部員の琴南 香奈 です。」

「わあああ可愛い。ねえねえ。君、何歳？ 彼氏は、？」

香奈「．．新入部員に質問攻め？．．私、うるさい人嫌いな。さよなら．．」

小林 なうや「まじかよおおお！！俺は、終わった」

並河「お前は、うるさすぎなんだよ；悪いな。新入部員だったのに、最初に会ったのが

こんなやつで」

なうや「こんなやつっていうなあああ！！」

並河「俺、並河。並河雄太。 よろしく．．」

香奈「よろしく。」

と言うと彼女は、握手を求めてきた

並河「あ、ああ」

俺は、手をとる。それを見た奴が．．はあ；

なうや「おおおおい！！！！ずるいぞおおお！！俺にも握手させるよあ！！な？いいだろ？」

香奈「．．お断りさせてもらうわ．．」

なうや「はう．．僕は、もう。だめなんだ。」

並河「さてと。ブルーショックになった．．あいつほつといて。香奈さんだったか？」

香奈「香奈でいいです．．」

並河「それじゃあ、香奈。観察するか？」

香奈「ええ。そうね．．並河。」

なうや「呼び捨てかよ！！呼び捨てかよおおお！！きいいい。

うらやましいいい。これぞ

リア獣いや、並河、爆発しろ!!」

並河「やけに早い復活だな．．」

そんなこんなで。新入部員が入ってきた。

## 新入部員（後書き）

新入部員が入ってきた

天体観測部。なにかと並河に絡んでくる進入部員。

そして．．もてない若干一名。

なうや「俺かよっ!!」

作者「お前以外誰だよ」

なうや「ありえないよ!!俺の設定、ひどすぎたよ!!」

と言う分けで次回www

なうや「無視かよおおおおお」

作者「うるさいですね」

「ゴチン!!」

なうや「いたいよぉあたまがぁぁぁ」

小林の古い友達？（前書き）

小林に女？どう言う事だ？  
まあいいかw。

## 小林の古い友達？

俺は、知り合った。琴南と結構、中は、よくなった。

一方．．．あのなうやだが；

小林「あああああ！！俺も彼女ほしいい！！」

雄太「お前には、．．無理に近い。」

香奈「見苦しい．．」

と、そのとき。

「暇そうだね！！私をほつといて、よくそんなに平気だよね！！なうや」

なうや「お前、誰だっけ？」

「雪原 風嘉。おぼえてない？」

なうや「ああ、あの。天才不思議少女で。人を殴り魔の。面倒だとクラスから

煙たがられていた悲しき少女様ですか？」

風嘉「最後の殴り魔は、余計だと思っただけどうなのかな？ねえ？」

なうや「もんだいねえだろ」

風嘉「なーうーやー！！」

なうや「うわあ！！殺生なさらないで！！命は、お助けをー！！」

風嘉「まてえええ！！」

雄太「あいつら．．中良いみたいだな．．」

香奈「そうね．．」

すると部長が言い出す

部長「はいはい。みんな。明日は、部員旅行ですね。行き先は、紙浪市 岬町の。旅館。

スターイン リガイガーデンです。」

香奈「あそこは、確か。一番高い旅館だと．．お聞きしましたが。」

部長「大丈夫ですb 一番高い部屋を用意いたしましたので！！持ち物の説明しますね。」

お金は、制限無し。その他は、自分の好きな物を持ってokということですよ」

風嘉「わぁーい！！あの旅館。雰囲気すごいいいらしいよ！！」

なつや「で？なんで。たまたま。ぎりぎりすれすれで。ここに合格できたお前が」

天体観測部に？」

風嘉「なつやに会うために決まってるんだよ！！」

なつや「ぎゃああああ！！」

部長「部屋割りには、男女相部屋と言う事だそうです。雄太君と香奈さん108号しつ」

部員「おいおいまじかよ！！いいなあゝあんな可愛い奴と相部屋なんて。なあ？なつや」

なつや「そうだな！！夜中にこいつ抜きで行っていい？」

風嘉「なによ！！私と相部屋がいやみたいに言ってるさ、ひどいんだよ！！」

なつや「ちなみに。俺の部屋は、？」

部長「なつや君 風嘉さんペアです」

風嘉「はうう／＼わぁーいなつやあゝなつやあゝ。夜中は、眠れないよ？」

なつや「絶望的だ．．」

部長「明日の4時に集合。バス。と言う流れで行きますので。遅れないでくださいよ？」

片方が遅れたペアは、留守番ですよ？」

なつや「本当ですか！！」

なつやの目は、なぜかキラキラ輝いていた。まるで。星たちのように。

部長「本当です」

なつや「今、一瞬。部長が神に見えた。じゃあわりいあすは．．っ

て。なんだそのすべてを見通す目のような。俺に向ける鋭い視線は、？」

風嘉「もしかして。遅刻しようなんて。思っていないよね？電話かけて。「ごめん今日、調子悪いわ」

つて、言って仮病使おうとかしてないよね？」

なうや「うつ．．お察しのとおりでござえます。」

風嘉「．．なうや。今日、なうやの家、泊まるね。あ、もしもしなうや君のお母さんですか？

私、風嘉です「まあ、久しぶりね」今日なんですけど。とめてくれないませんか？

なうやが明日起きれないそうなので「いいの？あんな子のために」良いんです。

「そう？じゃあ、跡で向かいに行くわね。じゃあね」バイバーイピっ

なうや「おいおまええええ勝手に親をつかって、適当な理屈で口実立てんなああー!!」

風嘉「だって、悪魔でも起こすためだから。」

なうや「もはや、何も言えまい。ああ!!わかったよ!!」

風嘉「わああい」

雄太「本当、なかいいな」

そのとき、後ろから声をかけられた

香奈だつた

香奈「あの．．」

雄太「なんだ？」

香奈「私ももう少し。雄太と話してみたいし．．いい？」

雄太「わかった。」

と言った瞬間、部員達となうやのきつく。つめたーく。するどおおい。

視線を感じていた；おおこわこわ．．」

そんなこんなで。大体部活は、終了。

それぞれの家に帰った。

小林の古い友達？（後書き）

そんなこんなで。無断外泊が始まるのでした。  
次回、無断外泊。

無断外泊。並河雄太編。（前書き）

そんなこんなで。無断外泊がはじまった。  
なぜだかドキドキする。

無断外泊。並河雄太編。

並河「ここ．．俺の家」

琴南「おじゃまします」

どうすればいいんだ？

会話がないと飽きられてしまうな．．

並河「なにか飲む？」

琴南「ええ．．」

並河「アップルテイ．．好きか？」

琴南「ありがとう」

並河「あの．．まだ。入れてないんだけど．．」

琴南「ごめんなさい．．」

並河「あ、ああ；」

こんな感じで大丈夫なのだろうか．．

俺は、ものすごく先が心配だった。

「ぐう」

並河「琴南．．」

琴南「お腹．．すいた。」

並河「わかった。なんか作るよ。」

そう言つて俺が作ったのは、

得意のシチューだった。

並河「できた。」

琴南「いただきます。」

琴南「はむ．．」

並河「ど、どうだ？」

琴南「おいしい．．」

並河「ありがとう。」

並河「風呂．．先に入れよ」

琴南「でも．．」

並河「せっかくだし。入れよ」

琴南「わかった。」

俺は、琴南の風呂の帰りを待ちながら  
思う。

旅館で同じ部屋だったな．．大丈夫か？俺。  
そもそもなんで俺は、琴南の事がこんなに  
気になるんだ？

琴南「どうしたんだろう私．．並河君の事、気にしてる．．どうし  
て？」

いやいや、俺は、別にそんな中になろうなんて  
望んでもいないし。

そうこう考えてる間に琴南が帰ってくる。

琴南「並河君？」

並河「あ．．ああ．その。おかえり。」

琴南「？」

並河「だから、その」

琴南「えっ？」

並河「いや。なんでもない。じゃあ俺、風呂入ってくる！！」

「ガラガラ。バシャン！！」

俺は、即行風呂につかる。

そして、出て。消灯の準備に入る。

並河「おっと。」

琴南「うわきゃー！！」

並河「琴南大丈夫か？」

琴南「あの．．その。」

俺は、押し倒したような格好になってしまふ。  
だがここは、冷静にいくべきだ！！

並河「ああ、悪いな」

琴南「いえ．．私は、別に。」

並河「電気．．消す。」

琴南「う、うん。」

「力チっ」

並河「……………」

琴南「……………」

琴南は、すぐとなりで寝ている。

そして、この空気。

気まずすぎる。

琴南「並河君」

並河「琴南」

二人同時に名前を呼んでしまうおち

並河あ……………」

琴南「は。。」

並河「眠れ……………ないのか？」

琴南「ええ。こう言うの初めて……………」

並河「あのーさ。」

琴南「何？」

並河「町。見に行かないか？夜景。結構きれいだ」

琴南「行きましようか。」

俺と琴南は、外に出る。

琴南「きれい……………」

並河「ああ、今の時間は、人も少ないしな……………」

琴南「そうなの？」

並河「ああ、普段は、にぎわう。うるさいくらいに、

けど、夜中は、静かな町だ。」

琴南「私……………好き……………」

並河「えっ……………」

琴南「静かなところが好き。」

並河「あ、ああ。なるほどな」

並河「さて……………服でも買いに行くか？」

琴南「お金は……………」

並河「持ってきた。」

俺たちは、楽しんだあと。

家に帰り。また布団に転がる。

琴南「並河君．．」

並河「なんだ？」

琴南「いい旅行にしようね」

並河「ああ。」

いま。小林は、何をしてるんだろうと。俺は、気にしながら眠った。

無断外泊。並河雄太編。（後書き）

気まずい空気をなんとか切り抜けた  
並河。

小林たちの無断外泊は、どうなっているんだろう？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8136x/>

---

星空学園

2011年11月6日10時11分発行